

群馬県がん患者団体連絡協議会

ニュースレター♪

第59号 2017年2月



編集・発行/公益財団法人群馬県健康づくり財団

☆がんと向き合う作品展・群馬県がん患者ミーティング2017 同時開催しました

平成29年2月3日（金）13:00～17:00、2月4日（土）9:00～15:00 群馬県立図書館3階研修室において、「がんと向き合う作品展」を開催しました。

今回は、県立図書館で行われた群馬県の事業「ぐんまの安心・がんサポートブックフェア」の関連事業としてこの場所をお借りし、がん連協各団体に患者会の皆さんが日ごろ取り組んでいる見事な写真、絵画、短歌、俳句、工芸、手芸等約80点の作品が並びました。

3日は、1. 2の3で温泉に入る会ぐんまの会員の方が中心になり、ワークショップ「折り紙教室」を実施していただきました。かわいいシャツの形の楊枝入れ、復興の折り鶴などを教えていただき、楽しくおしゃべりをしながらひと時を過ごしました。（恥ずかしながら、鶴を折り紙で折ることのできなかつた事務局員。丁寧に教えていただき、2つ折り、3つ折っていくうちにできるようになり、お土産に復興の鶴をいただき、家族に作り方を伝えました。）

出品いただいたのは、ひまわりの会、あけぼの群馬、1. 2の3で温泉に入る会ぐんま、群馬あかぎ互療会、群馬ホスピスケア研究会の皆さんで、大島会長はたくさんの模様のメビウスの輪を用意して説明をしてくださいました。

来場者は68名と、昨年県のイベントと同時開催をした時よりも少ないものでありましたが、図書館の皆様には、がん連協の活動にご理解・ご協力をいただき、県保健予防課には、マスコミへの広報を積極的に行っていただいたことで、作品展、そして同時開催した「群馬県がん患者ミーティング2017」の事前告知や開催報告など、上毛新聞（1月17日、22日、2月5日）、朝日新聞（2月3日）に掲載され、ミーティングには多くの来場者が訪れました。

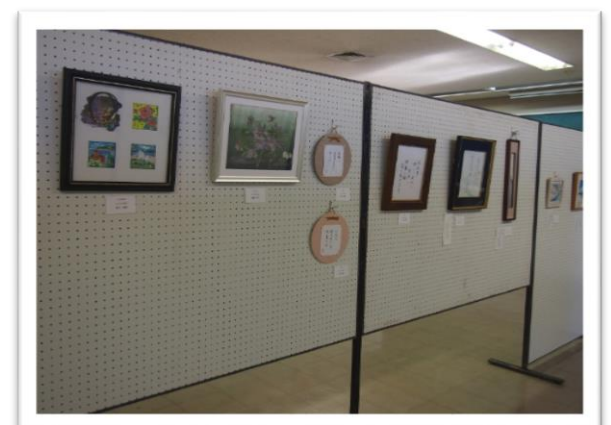
ご協力いただきました各会の皆様、ありがとうございました。



☆ 見事な作品の数々が展示されました。各会皆さんの作品に感心したり、ほのほのしたり、勇気をいただきました。



☆ ワークショップ「折り紙教室」和やかな雰囲気の中、復興の折り鶴を作成し、会員同士の交流も深まりました。



♪群馬県がん患者ミーティング2017♪

2月4日（土）、いよいよ群馬県がん患者ミーティング2017の開催です。

今年、がん連協は皆さんのおかげで10周年を迎えることとなりました。このことを記念する意味もあり、ミーティングでは、がん連協でもおなじみのサバイバーでもあるヨロコデぶっちさんに依頼し、ひと葉の会 読み語り芝居「父と暮せば」井上ひさし 作、岩淵 健二 演出、出演は花澤町子さん・ヨロコデぶっちさんのおふたりにより上演していただきました。舞台は1948年7月、原爆投下から3年後、広島に暮らす23歳の娘のお話です。

場所は県立図書館の3階ホール、先着100名様 入場無料にて開催しました。ゆったり観ていただけるよう、ステージを取り囲むようにイスを並べていたところ、開場すると次から次へとお客さんが来てくださり、係員総出で席を用意しました。この日、参加していただいた方は90名になり、ミーティング始めて以来最多の入場者となりました。

開演前のBGMに、じゃりん子チエの歌や歌謡曲が流れ、会場全体の雰囲気も温まってきたところで、大島会長から開会の挨拶がありました。

その後、ぶっちさんからのひとことがあり、読み語り芝居の幕が開きました。軽快なテンポの心地よい関西弁のやりとりに会場からは笑いが起こりました。ふたりがケンカをしてもお互いを大切にしていることがわかるので、それすらも微笑ましくて、時には漫才のようでした。休憩も設けましたが、90分があっという間でした。

ぶっちさんは「上演によせて」に次のように記しています。『あの日 生きていた人たち、そしてあの日 生きていこうと決めた人たちの力強さを 今 生きている人に伝えたい。そしたら元気になって次の世代に伝えてほしいのです。あの頃は なんにもなかったけれど 今よりずっと元気だったと思うのです。』

だからこのお芝居の父と娘のドタバタを思いっきり笑ってほしい。どこにでもいるような父と娘 たまたま広島だった、たまたまあの日だったのです。』

ぶっちさんと花澤さんのその想いは、同じ会場にいた人たちにしっかりと届きました。終演後は大きな拍手が続きました。ぶっちさん、花澤さん、そしてご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

ーありがとうございましたー

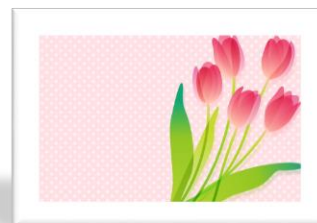
1. 2の3で温泉に入る会ぐんまの代表者であり、当協議会 監事の佐藤宮子さんが、2月12日、ご逝去されました。当協議会が発足した時から1. 2の3…の会をまとめ、がん連協のキャンペーンにはおそろいのエプロンで、多くの県民の皆さんに検診を呼びかけたり、マスコミのインタビューにも応じてたくさん大切なメッセージを発信していただきました。

リレー・フォー・ライフ・ジャパンぐんまを開始してからは、実行委員としてサバイバーテントの運営を一手に引き受けてくださり、一晩中、歩く人たちをサポート。ご家族を亡くした方が佐藤さんと活動を共にし、気持ちがあほぐれ、また翌年、元気にボランティアとして参加されるなど、誰にも優しく穏やかな、お母さんのような存在でした。

佐藤さん、がん連協の活動を一緒にできたこと。本当にうれしかったです。心から感謝申し上げますとともに謹んでご冥福をお祈りいたします。



☆「父と暮せば」
ぶっちさん、花澤さんの息の合ったお芝居。



・・・編集後記・・・

2月は作品展、患者ミーティングなどがん連協の行事が多く、各会の皆さんにはご協力をいただきありがとうございました。

おかげさまをもちまして、群馬県健康づくり財団も昨年12月に設立30周年を迎え、今月、記念式典を開催いたしました。

これからはがん征圧に向け、がん連協の皆さんと連携した事業を行いたいと考えております。

(担当：荒木 美保)

【事務局】〒371-0005 群馬県前橋市堀之下町16-1
群馬県健康づくり財団 企画広報課内 ☎027-269-7403